

# Intensive Seminar Vol.51

学習テーマ

エンゲルス  
「空想から科学への社会主義の発展」  
新日本出版社 62頁

唯物論的歴史観はつぎの命題から出発する。

すなわち、生産が、そして生産のつぎにはその生産物の交換が、すべての社会制度の基礎であるということ、歴史上あらわれたどの社会においても、生産物の分配は、それとともにまた諸階級あるいは諸身分への社会の編成は、なにがどのように生産され、生産されたものがどのように交換されるかにしたがっておこなわれるということである。

したがって、すべての社会的変動と政治的変革の究極の原因は、人間の頭のなかに、すなわち、永遠の真理と正義についての人間の認識の発展に求めるべきでなくて、生産様式と交換様式の変化に求めるべきであり、それは哲学のなかでなくて、その時期の経済のなかで求めるべきである。

現存の社会制度が非理性的な、不正義なものであり、理性は無意味になり、幸いが災いになったということについての認識の発展は、生産方法と交換形態についてのまにか変化がおこり、以前の経済的条件にあわせてつくられた社会制度がもはやこの変化に適合しなくなったことの、一つの兆候にすぎない。……次頁につづく

講師

友寄英隆・経済研究者

# 世界と日本の資本主義発達史

『資本主義の発展』1989年

## 《第51回集中セミナー》

日時 2017年7月23日(日) 13時～17時

受講料 2500円 定員 100名

参考資料 「『資本論』を読むための年表  
世界と日本の資本主義発達史」

学習の友社

会場 京都市職員会館「かもがわ」

……前頁からのつづき

それはまた同時に、あばき出された弊害を取り除くための手段もまた、変化した生産関係そのもののなかに——多かれ少なかれ発展して——存在しているにちがいないということの意味する。

この手段は、けっして頭のなかで考案すべきものではなくて、頭をつかって現存の生産の物質的事実のなかに発見すべきものである。

-----  
◎友寄英隆著「『資本論』を読むための年表 世界と日本の資本主義発達史」179

## 【引用】マルクス『経済学批判』（1859年）の「序言」の唯物史観の定式

（引用に当たって、引用者の責任で段落を区切り、改行してあります）

「私にとって明らかとなった、そしてひとたび自分のものになってからは私の研究にとって導きの糸として役立つ一般的な結論は、手短かに次のように定式化することができる。

人間は、彼らの生命の社会的生産において、一定の、必然的な、彼らの意志から独立した諸関係を、すなわち、彼らの物質的生産諸力の一定の発展段階に照応する生産諸関係を受け容れる。これらの生産諸関係の総体は、社会の経済的構造を形成する。これが実在の土台であり、その上に一つの法的かつ政治的な上部構造がそびえ立ち、そしてこの土台に一定の社会的意識諸形態が照応する。物質的生活の生産様式が、社会的（social）、政治的および精神的生活過程一般の条件を与える。人間の意識が彼らの存在を規定するのではなく、逆に彼らの社会的存在が彼らの意識を規定するのである。

社会の物質的生産諸力は、その発展のある段階で、それらがそれまでのその内部で運動してきた既存の生産関係と、あるいは同じことの法的表現に過ぎないが、所有諸関係と矛盾するようになる。これらの諸関係は、生産諸力の発展諸形態からその桎梏に逆転する。そのときから社会革命の時期が始まる。経済的基礎の変化とともに、巨大な上部構造全体が、徐々にであれ急激にであれ、変革される。

このような諸変革の考察にあたっては、経済的生産諸条件における自然科学的に正確に確認できる物質的な変革と、人間がそのなかでこの衝突を意識し、それを闘いぬく形態である法的な、政治的な、宗教的な、芸術的あるいは哲学的な諸形態、簡単にいえばイデオロギー的な諸形態とをつねに区別しなければならない。ある個人がなんであるかは、その個人が自分自身のことをどう思っているかによって判断されないのと同様に、このような変革の時期をその時期の意識から判断することはできないのであってむしろこの意識を物質的生活の諸矛盾から、社会的生産諸力と生産諸関係とのあいだに現存する衝突から説明しなければならない。

一つの社会構成は、それが十分包容しうる生産諸力がすべて発展しきるまでは、けっして没落するものではなく、新しい、さらに高度の生産諸関係は、その物質的存在条件が古い社会自体の胎内で孵化されおわるまでは、けっして古いものにとって代わることはない。それだから人類はつねに、自分が解決しうる課題だけを自分に提起する。というのは、詳しく考察してみると、課題そのものが、その解決の物質的諸条件がすでに存在しているか、またはすくなくとも生成の過程にある場合にかぎって発生する、ということが、つねにわかるであろうから。

大づかみにいって、アジア的、古典古代的、封建的および近代ブルジョア的生産様式を経済的社会構成が進歩していく諸時期としてあげることができる。ブルジョア的生産諸関係は、社会的生産過程の最後の敵対的形態である。敵対的というのは、個人的敵対という意味ではなく諸個人の社会的な生活諸条件から生じてくる敵対という意味である。しかしブルジョア社会の胎内で発展しつつある生産諸力は、同時にこの敵対の解決のための物質的諸条件をもつくりだす。したがって、この社会構成でもって人類社会の前史は終わる」

(大月書店『資本論草稿集』③、205～206ページ)。



# 京都学習協の第51回集中セミナー 募集要項

- 申し込みは、このテーマを学びたいと思う方は誰でも参加できます。
- 申し込みは、「申込書」に必要事項を記入し申し込んでください。  
FAXでも申し込みができます（受講料は当日お支払いください）。
- 講義時間は、午後1時～5時（休憩も含みます）
- 受講料は、2,500円です。（税込み）
- 会場は、「京都市職員会館かもがわ」

中京区土手町夷川上ル末丸町  
電話 (075) 256-1307

【申込先】

## 京都労働者学習協議会

上京区堀川丸太町西一筋目上ル  
『京都学習会館』内

電話 (075) 841-8141  
FAX (075) 821-3665



京都学習協の第51回集中セミナー 申込み日時 年 月 日

フリガナ

氏名: \_\_\_\_\_ ・年齢 \_\_\_\_\_ 才

現住所:

職場・学園:

労働組合名:

電話: 職場 \_\_\_\_\_ 自宅 \_\_\_\_\_